

		東京 2025 デフリンピックのメダリストが 練馬区民栄誉賞を受賞しました	
と	き	12 月 22 日（月）午前 10 時 30 分～11 時	
と	こ	練馬区役所（豊玉北 6－1 2－1）	
<p>22 日、東京2025デフリンピックにおいて、メダルを獲得した山田真樹選手（陸上）、森ころ選手（空手）、山田瑞恵選手（卓球）、原口凌輔選手（サッカー）の 4 名が、「練馬区民栄誉賞」を受賞した。</p> <p>練馬区民栄誉賞は、スポーツ、芸術および学術等の分野において、特に顕著な業績を挙げ、広く区民に敬愛され、社会に希望と活力を与え、練馬区の名を高めた者に贈られる賞である。</p> <p>同日、練馬区役所で顕彰式が行われ、前川 耀男 練馬区長から 4 名に表彰状と副賞を贈呈した。</p> <p>山田真樹選手は「デフリンピックの出場は今回で 3 回目になるが、色々な意味で、今までで一番重いメダルを獲得したと思っている。これからも練馬区民として誇りを持って行動していきたいと思う。」と話した。</p> <p>森選手は「このような素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。学生として、これからも文武両道で頑張っていきたい」と話した。</p> <p>山田瑞恵選手は、「練馬区からたくさんの応援、サポートをいただいてメダルを獲得できたことを幸せに思う。今後も『デフスポーツ』を広めていけたらと思っている。引き続き、応援をお願いいたします。」と話した。</p> <p>原口凌輔選手は、「生まれ育った練馬区からこのような賞をいただけて嬉しく思う。デフリンピックの意義はスポーツだけでなく、共生社会をめざすことだと思っている。これからも応援をお願いいたします。」と話した。</p> <p>前川区長は「皆さんが、世界最高のひのき舞台で活躍をされ、最高の栄誉を手にしたことに、心からお祝い申し上げます。これからも区の障害者スポーツの振興に努めていきたい。」と話した。</p>			
		▲左から、山田真樹選手、森選手、山田瑞恵選手、原口選手	

【受賞者プロフィール】

① 山田 真樹（やまだ まき）選手



陸上【東京 2025 デフリンピック 陸上男子 400m・4×400mリレー「金」、200m「銀」】
高校から陸上を始め、都立中央ろう学校高等部を経て東京経済大学へ進学し、陸上部に所属して競技に打ち込む。2017 年サムスンデフリンピックに初出場し、200m で金、400m で銀、4×100m リレーで金メダルを獲得した。大学卒業後も競技を続け、現在はぴあ株式会社に所属している。

② 森 ころ（もり ころろ）選手



空手【東京 2025 デフリンピック 空手女子 形 団体戦「金」】
2007 年北海道生まれ。5 歳のときに、空手を始める。デフリンピックへの出場は、今回の東京 2025 デフリンピックが初めて。2024 年に出場した World Deaf Karate Championships 2024 女子団体形で金メダルを獲得。現在は、筑波大学付属聴覚特別支援学校に在学している。

③ 山田 瑞恵（やまだ みずえ）選手



卓球【東京 2025 デフリンピック 卓球女子 団体戦「銀」、ダブルス「銅」】

母と姉の影響で中学の部活動から卓球を始め、高校 3 年でサムスンデフリンピックに初出場。今回の東京 2025 デフリンピックが 4 度目の出場となる。現在は SMBC 日興証券株式会社に所属し、デフ卓球日本代表として競技に取り組んでいる。

④ 原口 凌輔（はらぐち りょうすけ）選手



サッカー【東京 2025 デフリンピック サッカー 男子「銀」】

1994 年生まれ。幼少期より練馬区で育ち、豊玉南小学校・開進第二中学校出身。大学 1 年でデフサッカーに出会い、デフサッカー日本代表として活動を開始。2023 年世界選手権準優勝、2024 年アジア太平洋ろう者競技大会優勝を経て、東京 2025 デフリンピックでは史上初の銀メダル獲得に貢献。現在は株式会社ゼンリンデータコムのアスリート雇用として、競技と仕事の両立に取り組んでいる。

【練馬区民栄誉賞】

スポーツ、芸術および学術等の分野において、特に顕著な業績を挙げ、広く区民に敬愛され、社会に希望と活力を与え、練馬区の名を高めた者を顕彰することとしている。

【問合せ】

[区民栄誉賞に関すること]

練馬区総務課総務係

電話 03-5984-2600

[スポーツ施策に関すること]

練馬区スポーツ振興課事業係

電話 03-5984-1947

[障害者施策に関すること]

練馬区障害者施策推進課事業計画係

電話 03-5984-4602